

高退教

岡山

第 149 号

2017年4月

岡山県高校・障害児学校
退職教職員の会

〒703-8258

岡山市中区西川原255番地

岡山県教育会ビル3F岡山高教組気付

TEL (086)272-2245

Fax (086)272-2242

目 次

一退職者慰労の会に参加して一どう深める教職員の連携
萱 栄次 1

多彩に、元気に、睦まじく
一岡山高退教支部別「春の交流会」一

【備北】御殿町まち歩きと雛まつり散策 藤原洋平

【備南】笑いが絶えない「世界一人旅」 綾野保晴

【備西】下見時の不安も吹っ飛んで 清水親義

【岡山・旭東】スポーツ吹き矢にチャレンジ 岡田憲朗

【連載】 中国での生活と帰国後の生活(第3回) 曾田康載

【投稿】 サギかカラスか論争異聞 山本和弘

－退職者慰労の会に参加して－ どう深める教職員の連携

岡山高退教会長 萱 栄次

去る 3 月 20 日、高教組主催による「退職者慰労の会」に藤原斌事務局長とともに参加させていただきました。

現在の教育現場の困難な状況はよく聞かされていましたが、それとあわせて、驚いたのは、定年退職後の生活です。

ほとんどの方は、フル（またはハーフ）など、何らかの形で学校とのかかわりを続けられ、現役時代はもとより、退職後も、厳しい生活環境におかれている現実です。私たち退職教職員は、どのように彼らとの絆を深めればよいのかと思いました。

会の中では、「ひとりぼっちの退職教職員にはならない」「ひとりぼっちの退職教職員をつくらない」という私たち高退教のスローガンに共感していただいたのか、会場から、「高退教に加入します」の声をいただき、勇気づけられた一幕もありました。

この日、私にとって、特に脳裏に残っている言葉がありました。藤原氏の「高退教は親睦・交流が 7 分、運動 3 分」の団体です。しかし、今は「安倍さんのおかげで、運動 8 分」となっていますとの言葉です。

いつもは、そのまま受け流すのですが、「そうだ、一日も早く」元のように運動 3 分の時代にするための運動が重要であることを強く感じたものです。



多彩に、元気に、睦まじく

—岡山高退教支部別「春の交流会」—

高退教各支部恒例の春の交流会が、下記のとおり開催されました。
各支部の交流会の様様について、記事を寄せていただきましたので、開催日順にご紹介します。
なお、開催日の関係で、美作支部の記事は次回掲載の予定です。

支部名	交流会の内容
〈岡山・旭東支部〉 3月27日（月） 10:00～15:00	スポーツ吹き矢と歌声・近況の交流 西川原プラザ別館 2 階 参加費：1000 円 軽い運動のできる服装で… 弁当を用意しています
〈備南支部〉 3月22日（水） 12:30～	正保先生の『無謀な世界一人旅』・近況の交流 くらしき健康福祉プラザ 301 研修室 参加費：1000 円
〈備北支部〉 3月5日（日） 9:50～14:00	「新見御殿町まち歩き（ガイド付き）」・「にいま雛まつり散策」 近況の交流 新見市御殿町センター集合 昼食は散策中に各自で
〈備西支部〉 3月24日（金） 9:30～14:30	徳富蘆花歌碑→乙島霊場巡り→戸島神社→常照院→水島古戦場柏島→良寛荘 近況の交流 玉島市民交流センター集合 会費：2500 円
〈美作支部〉 4月28日（金） 10:00～15:00	曾田康載先生の『中国での生活』 現在の中国を学び太極拳を体験 近況の交流 アリコペールしんぞ 2 階 津山ふれあいサロン 参加費：1000 円

【備北】御殿町まち歩きと雛まつり散策

藤原洋平

何十年振りだろうか、車ではなく伯備線で総社から新見に向かう。車では味わえない沿線の風景に懐かしさを感じながら一時間あまりの列車旅を満喫する。私事で恐縮だが今回は自転車事故で鎖骨骨折その術後1ヶ月ということもあり初めての妻同伴の参加となる。要するに介護付き参加である（笑）

電車を降り新見駅から雛めぐりイベントの準備風景を見ながら古い町並みを歩いて集合場所の御殿町センターへ。



今回は他支部からの参加2名を加え総勢8名と少人数の交流会となったが、少人数だからできた丁寧な解説と町家見学に大満足することに。

ボランティアガイドの大西さんの案内で元造り酒屋「津国屋」の内蔵の見学から明治から昭和30年ころまで料亭として一世を風靡した元料亭「松葉」や昭和40年頃まで新見の政財界

人で賑わった元料亭「松月」など往年の隆盛を偲ばせる豪華絢爛な調度品や雛人形の数々に感嘆のため息。

1時間あまりの町家めぐりはあっという間に過ぎ、ガイドの大西さんに感謝し御殿センターの研修室での懇親会に向かう。

恒例の参加者の近況報告では病気自慢(?)の数々。今回の世話人の幹事の山本さんの闘病のお話は大変さを



笑いを交えながら示唆のある体験談でした。

私の飲酒失敗談とは大違いだが高退教の避けて通れない話題中心、でも人生下り坂もまんざら捨てたもんじゃないと思う。(笑)

お世話いただいた山本さんに感謝して御殿町センターで解散する。その後はそれぞれ自由に昼食をとり市内散策に。

ひなびた商店街で私は山田屋の夫婦饅頭、妻はあおやぎのサバランを食べ歩きながら帰途につく。



【備南】笑いが絶えない「世界一人旅」

綾野保晴

3月22日(水)、前日までの雨もすっかり上がり、寒さも和らぎ快適な晴天のもとで、備南支部「春の交流会」は17名の参加者を得て開催された。会場の倉敷健康福祉プラザは平日にもかかわらず、若い人の利用客で賑わっていた。

まず昼食。プラザ出入りの業者さんのお弁当は、素材も良く、味付けも良く、とても美味しくいただいた。

つづいてミニ講演会「無謀な世界一人旅」。

幼い頃から抱いていた夢を退職を機に実現しようと「おとなの世界一周」（朝日新聞出版）をバイブルとして一步を踏み出した正保さん。英語もドイツ語もフランス語もしゃべれない、日本語すらおぼつかない。出発前に用意した英語は「Thank you.」「good morning.」「I can't speak English.」「I can speak Japanese only.」の4フレーズ。

世界一周ビジネスクラス一年間有効航空券72万円也を手には優雅な旅に出発！！と思いきや、ビジネスクラスに許されるラウンジ（飲み放題、食べ放題！！）、機内的高级サービスについ手が伸び、舌が伸び、なんとニューヨーク、ジョン・



F・ケネディー空港に降り立ったのは、二日酔いと痛風の衝撃の中。足の痛みと勝手わからぬ交通機関に翻弄されながら旅は始まった。

ニューヨーク、ロンドン、パリ、マドリード、行く先々で煩悶することしばしば。しかし、彼曰く「天使が助けてくれるんです。ホントウニ！！」「弱り果てた時に天使がいてくれるんですねエ！！」。だがこれは、正保さんが呼び寄せるのだろう。

「やってみたい」と「やってみよう」では月とスッポン。前向き、なんでも勉強精神が道を開いてくれるのだと納得させられる。

「荷物は1 gでも軽く、小さなリュックサックのみ」といった旅への意外な周到さと、「メガネがない!」「痛風の薬送れの国際電話」「預け荷物の交換フダがない!」「サイフすられました!」の落差に参加者一同笑いが絶えない一時間であった。

冒険は幾つになっても少年の姿をしている。外国では、言葉を用いないコミュニケーション力を発揮されたというが、正保さんの以前の姿を思い浮かべる限り、この日の講演、**Japanese** コミュニケーション力最高の出来だったような……。

講演の後は、近況報告で交流を深め、記念撮影をして、おみやげのパンを抱えて、温かい気持ちで帰路についた。

P.S. 正保さんのこの旅行記は「子育て何でも相談ネットワーク」の会報に掲載中です。



【備西】下見時の不安も吹っ飛んで

清水親義

今年も武田芳紀先生のお骨折りで、二年連続の玉島開催となりました。参加者は18名、好天にも恵まれ、大変有意義な会となりました。

正直に言えば、実は今年の会には、私は多少不安を抱いておりました。下見の際、同じ場所へ行こうとしているはずの車が離ればなれになったり、目的地に辿り着くまでに、相当期間人が歩いているとは思えない、草と落ち葉の重なった急な坂道を延々と登るという具合で、「退職者の会の行事がこんなことで大丈夫なのだろうか」という不安が何度もよぎったのです。

しかし、本番ではこの不安は最初から吹っ飛びました。緻密なコース設計がされていたのです。

下見の時は、最初が道路脇の駐車でしたから不安をぬぐい切れませんでした。本番では戸島神社の駐車場に堂々と止め、ここから乙島霊場39番へ徒歩で移動したのです。その後、40番41番と順に巡りました。お賽銭を用意しておいたという方までおられて、その用意周到ぶりに驚かされました。

小径沿いの家庭菜園では、暖かい玉島らしく、エンドウが他所の数倍の丈まで育っていました。次に訪れた徳富蘆花歌碑(磨崖歌碑)の前でも、「人の子の貝掘りあらず砂原を平になして波の寄せ来る」という名歌を味わい、石碑の前が海岸だった往時を偲ぶ余裕がありました。

この後、駐車させていただいた戸島神社を参拝。車移動と徒歩移動の二手に分かれました。徒歩組は、勇壮な祭りの話を聞きながら石段を一段一段踏みしめました。



冬籠り繰返す身に友に誘はれ来鶯の一声戸島神社にてさづかる 後藤治子

数ヶ月前、坂道を息を切らせながら登った常照院（「源平水島合戦城趾」という石碑がある）も、今回は駐車場の確認が出来ていたのので、車で近くまで行けました。こちらは、源氏方の布陣跡となります。



次は、柏島の「源平合戦水島古戦場」を訪れました。こちらは、平氏方の布陣跡となります。下見の時は簡単に駐車できたのですが、今回行ってみると、駐車しにくくなっていて、「こりゃ参った!」と思っていると、武田先生の機転で、全車ご近所の方のご厚意に甘えることができました。

水玉ブルーラインがすぐ側を走っているの、ひっきりなしに車の音が響きます。

春霞む水島灘の古戦場行き交ふ車音(しゃおと)に兵どもが関の声

岡田潤

最後は、昨年と同じ良寛荘での昼食と交流。

近況報告では、有益なお話が次々と披露されました。特に後藤治子先生の「勤務年数と退職後の年数が近づいて」というお話に、皆さん大いに勇気づけられ、また清水謙三先生の「作った野菜を置く『野菜無人販売所』」を開設し、ワカメなんかは寄島の海から取ってきて無料で置いておく」というお話には、時期や場所を尋ねる声が相次ぎました。

来年も、高瀬通しを中心に玉島の魅力を探ることを確認し、楽しい会を終えました。



【岡山・旭東】スポーツ吹き矢にチャレンジ

岡田憲朗

午前10時 小林軍治さんの挨拶で始まりました。

午前は今回の目玉である、スポーツ吹き矢です。秋山昌男氏（岡山県スポーツ吹き矢協会 準師範6段位 上級公認指導員）による説明の後、全員が1回（5射）練習しました。



的の真ん中に当たると7点です。最高35点で33点を出した人もありました。その後競技に移りましたが、上位者には豪華賞品もあるということで、皆真剣な表情



情で取り組みました。2回の合計得点で競いましたが、52点で3人が並んだため、決定戦を行いました。その結果、1位小川澄雄さん、2位井上進夫さん、3位三宅淑美さんとなりました。飛び賞では、8位横田廣太郎さん、15位は難波さんのお孫さんの貴瑛君になりました。

また、3個ずつ3列に並べた風船を的に、2ビンゴをねらう競技では、居郷毅さんが見事に完成させて大きな拍手を浴びました。講師から特別賞をいただきました。肺活量を測る場面では、すごい数字を出す人もいて会場を沸かせました。

昼食は、おいしい弁当をいただきました。



午後は、徳方宏治さんのリードで歌声で始まりました。『四季の歌』を皮切りに、『緑の山河』まで、約30分、懐かしい歌を10曲、大きな声を出して歌いました。

次は憲法学習です。『全退教ニュース』第75号『自民党憲法草案を斬る』の記事を、6人で輪読した後、意見を出し合いました。憲法が危ない、という意識を強くしました。

最後に、各自の近況報告をしました。市民劇場、年金者組合、駄菓子屋はなだ屋



の開店、山登り、写真、2回の手術を経験などなど、70歳代の人がほとんどでしたが、それぞれ社会に参加して活躍されている姿に心を打たれました。

22名の参加で、楽しく充実した交流会になりました。来年も会いましょう。

【参加者感想】

高退教の会員になり、8年経ちます。今回は、お誘いの電話をいただき、久しぶりに春の交流会に参加しました。

<「スポーツ吹き矢」にチャレンジ>では、練習の時には的外ればかりで戸惑いましたが、本番の一回目でやっと中央部分に当てることができ、二回目になるとさらに得点の多い部分に当てることができました。9つの風船を使う“ビンゴ”では矢を4つの風船に当て、1つだけビンゴになりました。見事に5つに当てて、ダブルビンゴになった方がいらっしゃり、驚きました。「スポーツ吹き矢」は楽しくて、その上、心身の健康のためにとても良いということを経験しました。



<全退教ニュース>の『自民党憲法草案を斬る』の輪読を聞きながら、活字を目で追っていました。日本国憲法と比較すると、改憲草案は、国民主権原理を排除していく危険性があり、戦争への反省が見られず、平和的生存権を削除していくものであり、基本的人権を制約し、国や社会の秩序と安定を重視し

ていく内容です。改憲ではなくて改悪をねらうものです。許すことはできません。

<会員の交流タイム>では、皆様の近況が語られました。お話を聞きながら、私も体調に留意しつつ有意義な生活をしていきたいと思いました。楽しい春の交流会を企画していただき、ありがとうございました。(田中 豊子)

中国での生活と帰国後の生活（第3回）

岡山支部 曾田康載

「旅行」

（「新疆ウイグル自治区」。（2012・6・29～7・8）10日間。の記事までを前号に掲載。今回はその続きです。）

「チベット、ネパールの旅」。（2013. 7. 11～7. 20）

我々と親しい旅行会社の人の案内で、岡山から私の従妹、その友人、私の友人一人、愛知県からの参加者ひとり、東南大学勤務の日本人教師、と、われわれ夫婦、三江大学の日本人教師一人。約10日間の旅。

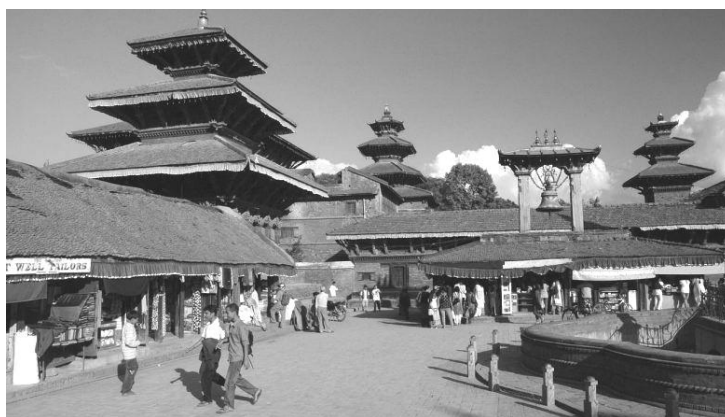
南京から西寧まで飛行機、そこからラサまでは延々と、人家も人影もない高原、山岳地帯、も通過していく鉄道の旅。5072Mの高度にある駅も通過した。軽い頭痛を感じた。チベット（西藏と言う）ではラサのみ見学、ポタラ宮殿の中にも入った。照明器具らしきものはほとんどない暗い室内に入るとやたら急な階段ばかりで、一通り見学したが、とてもきつかった。これは山壁に建てられているせいだろう。遠くから見る宮殿の外観はまことに美しいのだが。世界遺産なので現在は何にも使用されていない。

大昭寺、小昭寺、色拉（手偏に立）寺、なども見物。夜の自由行動では大劇場で妻と「幸福在路上」という劇も見た。

ラサ〜カトマンズは飛行機で越えた。機内から Mt エベレストなどヒマラヤ山脈がやっと見えた。（カトマンズではエベレストを見るためにバスで高度20

00Mのホテルに行ったが雨季のため煙って見えなかった。エベレストを見るための遊覧飛行も飛ばずダメだった。）

カトマンズは古い街で、ヒンズー教の寺院、ラマ教の寺院が多かった。クマリ寺院では、ヒンズーの「生き神様」とされている11歳の少女が二階の窓に現れたのを見た。カトマンズでは銀の腕輪、グルカナイフに魅せられて買った。ほとんどの



男性が特徴のある帽子をかぶっていたのでこれも買った。

人々はやたらバイクに乗り、乗用車は少なかった。川では、水葬風景を見た。火葬もしていた。夜はネパール料理を食べながら、ネパール音楽の演奏、それに合わせての踊りなどを見た。音楽は調子よく、南米風にも聞こえた。

昔ながらの暮らしを残しているネパール（カトマンズ）へはもう一度行きたい。

「南京大虐殺資料館」

嘗て（1982年？）教科書問題が起きた。日本が中国「侵略」を否定するような言葉「侵攻」を使用し、大問題になった。この事件がきっかけで、大量虐殺があった一現場に「南京大虐殺資料館」が設立された。だから、たくさんの生々しい白骨が掘り出されたそのままそこに展示されている、そんな展示場もある。1985年12月13日、「南京大虐殺記念日」に開館された。その後大改装され70周年の2007年12月13日に再度開館された。

何度か見学したが、開館時はいつも長蛇の列で在った。南京以外の他地域からの見学者も多かった。見学していると「ここに日本人がいたらぶち殴ってやりたい」と話している中国人もいた。まさにこれが全中国人の心情だろう。

われわれの日本からの客人たちは必ずここに案内していた。そのとき我々は日本語での会話を慎んでいた。

石原慎太郎元都知事、河村隆之元名古屋市長らはこの南京大虐殺を真っ向から否定している。河村氏などは2012年2月20日、名古屋市と姉妹都市縁組を結んでいる南京市の、名古屋市長を表敬訪問中の代表者たちに対し、何と面と向かって大虐殺を否認した、というのだからすざまじい。まさに確信犯である。これは、大ニュースとして、翌日の南京のすべての新聞のトップニュースとして大きく報道された。私も南京でこの新聞を読んだときとても信じられなかった。これが名古屋市長？南京市の代表に面と向かって否認??

日本であれこれ言っている、あるいは日本にいるからこそ放言できているこれらの著名人に耳打ちしてあげたい。「南京大虐殺記念館の大講堂でお話しされたらいかがですか」と。もし彼らにそんな蛮勇があればたちどころに日中の大問題に発展するだろうが、どうですか、やってみませんか。



「南京抗日戦争博物館」

これは呉先斌氏が一個人として作り、2006年12月11日開館の民間の抗日戦争博物館である。我々はこの博物館を借りて、「15年戦争資料センター」（我々もその一員）が収集した資料をパネル化し、展示させてもらい、公開した。題して「いまだ癒えない戦争の傷跡―日中戦争パネルから現代日本人の歴史認識を探る―」。その内容は3点。戦時動員に関する事項。岡山県と直接関連する事項。使用パネルの日中関係3項目（華北での掃討戦、中国人強制連行、満蒙開拓団）。たくさんの千羽鶴も飾った。

呉館長との付き合いは現在も続いている。この8月に来日し、8月4日には京都の「京都キャンパスプラザ」における「日本と中国・草の根交流会 IN 京都。記憶を確かめ合うために」という会で、「東南アジア市民交流と歴史認識の共有」というテーマで講演された。5日、金沢の「八紘一宇」の塔を壊せという市民運動に招待された。

8日に長崎入りし9日の長崎原爆記念日にも参列された。更に10日、名古屋市での「戦争と平和展」に行く途中、岡山で一時下車され、昼食を一緒にし、2時間ほど歓談することができた。彼も平和建設のために闘っているのだ。

白色、額の部分に赤い星一つ。これは彼のデザインによるキャップであるが、かなり昔、

私にも一つくれた。以来愛用してきた。古くなり、少し傷んできたので、次回南京に行ったときにまた下さい、という、彼が被っていた帽子を即下さった。

「国際関係学院」

2013年ごろから請われてこの大学で非常勤講師を務めた。週に一度日本語会話を教えた。三江大学の日本語科主任に頼まれたからなのだが、そのとき彼は、この大学の非常勤講師を務めることについて決して他言無用、と私に釘を刺した。このとき、やや異常な感じがした。

この大学から三江大学まで迎車が来る。案内役として学生一人、教師一人が乗っていた。授業後もまた学生、教師が乗り、私を大学まで送ってくれた。つまり、送迎車、送迎者付きの非常勤講師であった。車のナンバーは最初が赤色でN、以下黒色の数字。この赤ナンバーの車だと怖いものなし。私の大学にやっても、無条件で開門され通してくれるのだ。

この大学は、特殊な大学で、中国陸軍の高級軍人養成大学であった。卒業後は直ちに士官待遇になる軍人のための大学だ。この大学の入り口はバリケード的な障害物が置かれ、鉄条網が張られ、二人の歩哨兵が銃を構えて立っている。この中に大

学があるなんて想像できないだろう。中に入ると、軍事訓練服の兵士の集団が隊列を整えてジョギングしていたり、隊列歩行していたり、三々五々制服姿で移動中だったりする。平服姿の私のほうが異常に見える。

授業は1時40分から3時20分まで。途中休憩10分間。授業対象の学生は二年生8名。うち、女子二名。

大学到着後は立ち止まってあたりを眺めたりなどしてはならない。学内で写真を撮ってはならない。学生の名前や故郷などを聞き出してはならない。これらは私が赴任する際に受けた注意事項である。だから、構内に入るとやや緊張した。

学生たちの名前（通称）は、ジャッキー、メアリー、ゲゼル、などまるで欧米人のような名前である。顔つきは明らかに中国人。このように、本名も出身地も秘密なのだ。

この大学は難関らしく、学生たちは礼儀正しく優秀であった。授業中には、後ろにこの大学の教師や先輩の学生たちが何人かいたこともある。日本人教師に興味があったのか、日本人の日本語に触れたかったのか。実は、この大学で外国人教師が教えるのは私が初めて、ということだった。8人という学生数はとても授業しやすい。教科書も使用したが、最後の年には、先生と自由に会話したい、という要求があった。実力向上の成果なのか。望むところとばかり彼らの質問に答えたり彼らに質問したり、で、実に楽しい授業になった。

2015年、帰国の年、5月～6月6回分の授業があるはずだったが、この大学に国家の会計審査が入ることになったため、流れてしまった。予想外の事だった。しかし、何としてもこのまま帰国したくない、何とかもう一度だけ学生たちに会い最後の授業をしてやりたかった、別れの挨拶をしたかった。私の大学の日本語科主任を通じて懸命に頼み込み、やっと1回分の授業許可が出た。

7月7日。その日の授業はやはり雰囲気は違っていった。

最後の授業のテーマは「日本文化紹介」。

出席生徒は前年からおなじみの3年生8名のほかに1年生14名、三江大学日本語科非常勤講師のこの大学教師も。

和服の紹介（甚兵衛、浴衣、着物、下駄、雪駄、草履など。着て、着せて、実演。落語の紹介、小さんと志ん朝。この日本語はとても聞き取りにくかったようだ。竹刀、柔道着持参で柔道と剣道。柔道は立ち技、寝技、関節技、絞め技、生徒相手に実演。歌詞配布、日本の戦後の歌謡曲、「青い山脈」など5曲の紹介後、歌詞の散文化の練習。

そして、別れの挨拶をした。そこから、約30分ほどの「お別れ会」になった。学生たちは私を彼らの席に座らせ、一人ずつ登壇し、私に別れの挨拶をしてくれた。そして最後に一人ずつお別れの手紙をくれた。帰宅後読んだ。短いけど心のこもった

手紙であった。しかし、彼らにも、話し言葉よりも書き言葉のほうが難しいことが分かった。

三江大学に日本語の非常勤講師として来ている国際関係学院の教師に、「ぜひ日本へ遊びに来てください」と伝え、「ダメなんです。国際関係学院の教師である限り、外国へ出かけることはできないのです」という返事。軍事関係者たちはこのように国家の厳しい管理下に置かれている。

「帰国後、現在の生活」

「帰国」

70歳の定年退職により、三江大学での10年間の教師生活を終え、2015年7月21日帰国した。

実は三江大学に外国人教師の定年制があるなど全く知らなかったため（そのような先輩がいなかった）、間近になって突然宣告されたときにはショックだった。もう2～3年は続けるつもりでいたので。

妻は1年早く自主退職し、帰国していたため、荷物づくり、後片付けなどすべて自分一人でしなければならず大変だった。10年間の生活により生活用品はもとより様々な物が実にたくさんたまっていたので。

6月30日に前期の授業が終わる、そして、期末試験、祭典、成績表提出。にもかかわらず、副主任が言うには、南京滞在期間は7月15日までであること。到底無理、そこで、日本語学科主任に期間延長を頼んだ。何やら調べるふりをしていたが、やはりだめだと。妻の場合は8月15日までだったではないか、と反論すると、あれ以後規則が厳しくなった、という。そこで知人の別の学科の主任に頼んでみた。すると彼が手を尽くしてくれ、やっと延期が可能になった。私は無責任な日本語科主任、副主任に不信感を覚えた。

しかし退職であれば長居は無用と、帰国を急いだ。飛行機のチケットを買っていたが、その日に間に合わせるため、最後の2日間は徹夜に近い状態で「残務整理、荷物づくりと郵便局からの発送、家の片づけ掃除」に没頭しなければならなくなった。

7月7日から約10日間妻が片付けの手伝いに来てくれはしたが、諸般の事情で実質4日ほどしか手伝ってはくれず。長女も来てくれたが実質3日足らず。たまりにたまった荷物はとてもそんなことでは処理できなかった。妻は、あれも捨てよ、これも捨てよ、と言うが、馴染んだ物は捨てられない性分の私には断腸の思いのとてもつらい作業だった。17日に妻が帰国してからは、前述の如くまさに地獄だった。そしてやっと南京脱出ができた。

「後悔していること」

10年間の南京生活ではあったが、激しく後悔していることが一点ある。それは、留学生生活を南京で送ってしまったことだ。

留学するや否や三江大学から日本語教師を依頼されたため、妻もそこに世話になっている手前、断ることはできなかった。しかし、教師生活が始まると仕事に追われ（高級作文の添削！）とても中国語学習どころではなくなった。南京師範大学では予習復習しないでただ授業を受けるだけだった。しかし退学はしなかった。午前中3時間のこの時間だけが日本語から解放されるときだった。午後からは日本語による日本語の授業、中国人日本語教師たちとの日本語会話、彼らは日本語会話学習のためにもなるのでよく我々日本人の世話をしてくれた。何かと接触を求めてきた。帰宅すれば妻との日本語での生活、わずかな暇も惜しんでの高級作文の添削。これでは日本にいて日本語に囲まれたなかから、中国語学習に通うのと同じ状況ではないか。

一人西安に行き、中国人、中国語に囲まれた生活の中で悪戦苦闘しながら、せめて1～2年間留学生生活をしないと、中国語、否、外国語は絶対に身につかない。

10年前のあの時、妻と大喧嘩をしてでも西安に脱出し留学生生活するべきだった。その後西安に留まるなり、南京に行くなりすればよかったのだ。取り返しのつかない大失敗だった。

高額の授業料を払って南京師範大学に6年間通ったが、得られたものはごくわずか。60歳からの学習ということもあろうが、わずかの中国語しか話せないし、理解できない。とても残念だ。

「基本的な、現在の生活状況」

無職である。無職暮らしがどんなものであるか、日々実感している。それはゆっくり棺桶に運ばれているのを感じる日々である。実はここからが第二の人生だったのだ。

6歳から始まった通学時代、そして就職、約45年間の勤務、つまり70歳までの教師生活。これは、毎日、決まった時間に、通学あるいは通勤し、どこかに所属しそこで多くの仲間や友人たちと生活する日々であった。つまり、第一の人生だ。

それが2015年7月21日の帰国以来無職になり、出勤することのない、つまり、多くの人と仕事（生産）関係を結ぶことのない無職暮らしが続いている。

毎日が日曜日、という生活では、日曜日が日曜日ではなくなり、楽しみにしていた夏休みも冬休みも存在しなくなるということだった。休日、長期休暇があつてこそその一週間、一か月、一年だったのである。かくて、つまりは生活のリズムがなくなり、人との交流がなくなり、生活感覚がなくなってしまった。

帰国後まさかこんな生活が待っていようなど想像もできなかった。

生活にリズムがなくなったので、せめて健康維持のためにと、毎朝総合グラウンドに出かけて、太極拳をしたり、ジョギングをしたりなど体を動かしている。

退職後、仕事や付き合いから解放され、やっとのんびり気ままに余生を送ることができる、そういう貴重な時間を与えられたのだ、と感じられる人は幸せだ。

帰国後味気ない無職生活も1年2か月、隠居暮らし、という、その日暮らし。これはもはや苦痛ですらある。週三日勤務ではあるが総合グラウンドの清掃員という仕事がある、と聞いた。見たところ、いずれもかなりの年配の人たちがやっている。これを私も、と、希望し依頼し、待ち望んでいるのだがまだ呼びがかからない。

おっと、これこそ未来だろうが、仕事やすべきこと、したいことなどが意識の前方に無ければ、時折、自分の墓場だけがすっきり見通せてしまう、ということになる。

「日本語教室」

このような生活の中だからこそ、大きな救いになっているのは毎週土曜日、午前10時から12時まで（1週間にわずか2時間きり）、財田公民館で開かれている「日本語教室」。ここに日本語教師の一人として参加するようになったことだ。

週に一日、それもわずか2時間ではあるが！！生徒としてやってくるのは中国残留孤児（中国東北部）2世、3世の縁者たち。常連の生徒たちは小学生二人、中学生三人、20代一人、60代半ばごろの夫婦と中国人男性、など、10名前後。彼ら彼女らに日本語を教えているのは、我々老齢の日本人教師4名。

生徒たちは暇があれば老いも若きも中国語で雑談している。中学生の姉にくっついてくる4～5歳の子ども、も。生徒たちは家庭では中国語で話しているのだろう。私には、この中国語が懐かしく、ここでは頻繁に飛び交っているのがなんだかうれしい。



投 稿

会員の山本和弘さんから投稿が寄せられていますので、ご紹介します。

サギかカラスか論争異聞 ブログ記事より転載

岡山支部 山本和弘

退職直後に、60の手習いで「ブログ」を始め、とりとめもない駄文・雑文ながら、およそ4年で1200記事を超えました。最近の記事をご紹介しますのでご笑覧あれ。

この鳥がサギであることは明白であります。これが、カラスであるかのような、レッテル貼りは、不愉快なんですよ。

失礼ですよ！ あなたたちはすぐにそうやってレッテル貼りをする。これを、デマゴグというんですよ。

何度も申しますが、これは明らかにサギですよ。

これがカラスではないかなどと、あなた方はそうやっていつも印象操作をしている。あたかも、あたかもですね、私や妻が犯罪者であるかのような印象操作。全くの誹謗中傷、極めて不愉快なんですよ。



そのことの上においてですね、この鳥がサギであるという、この見解は、まったく正しいと思いますよ。私は総理大臣なんですから。総理大臣として『カラスであるなどという事態は、あり得ない』と言ってるんですから、間違いありませんよ、それは。この姿勢

を貫くことに一点の曇りもありません。

そのことの上において、今までも、現在も、そして将来も！全く問題はない！！という事をお約束いたします。

あなた方は、あたかもこれがサギであるかのような印象操作を繰り返して、我々の見解に対する不安をあおるかもしれませんが、はっきり申し上げると、そんなやり方であなた方の信用・支持率が上がることはありませんよ。

念のために申し上げますが、やっぱ、これも、アオや灰色じゃなくて、シロですよ。もし灰色だったりアオだったりクロだったんであればですね、これはもう、私は総理大臣を辞めるということでもありますから、これははっきりと申し上げたいと、このように思います。

そのことの上においてですね、問題の核心はですね、あるというのならあるということを証明するのはあなた方の責任ですよ。

ないものをないと、白いものを白いと証明するのは、悪魔の証明といって、無理なんですよ。



ただし、イラク戦争は大量破壊兵器(核兵器)が無いと証明出来なかったイラクが悪いという事は申し上げておきたいと思います。デンデン。

故事ことわざ辞典から引用です。

烏を鷺

からすをさぎ

明らかに間違っていることを、強引に正当化しようとするたとえ。

黒い鳥であることは一目瞭然なのに、白い鷺だと言い張ることから。

同義語、鷺を烏／鷺を烏と言いくるめる

類義語、馬を鹿／鹿を指して馬と為す／白を黒という／這つても黒豆／雪を墨

追伸、どうやら、クロサギというサギは実在するそうですね。

ハラグロサギは、今のところ未確認です。<http://kazsan.blog.so-net.ne.jp/2017-03-07>